

公共交通であるバスで遅延なく移動できるようになれば バスの利用者が増加し、結果として交通渋滞が緩和できます。

沖縄県での自動運転バス実証実験

SIPでは自動運転技術をバスに適用することにより、誰にでも利用しやすく遅延の少ない次世代都市交通システムを開発してきました。都市部における渋滞や離島での交通手段確保等、多様な交通の課題を抱える沖縄県をモデルケースとして、自動運転バスの実証実験を行いました。

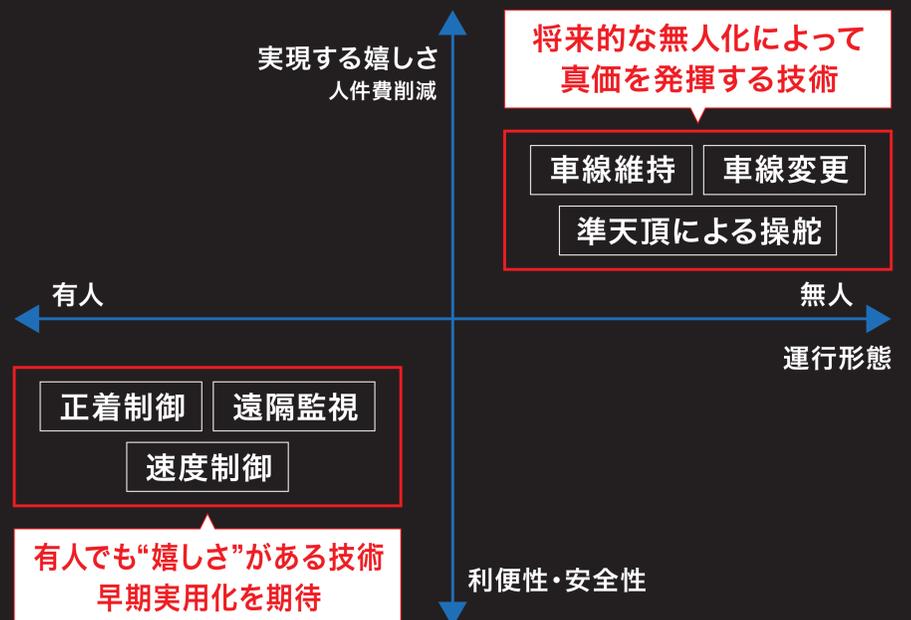
実証実験の概要

公道での実証実験	南城市	石垣市	宜野湾市・北中城村	那覇市・豊見城市
時期	2017年3月～4月	2017年6月～7月	2017年11月～12月	2019年1月～3月
距離(片道、合計)	1.2km、84km	16km、1650km	10km、440km	9km、(実施中)
交通量	非常に少ない	約1万台/日	約5万8千台/日	約5万2千台/日
最高速度	35km/h	40km/h	40km/h	50km/h
試乗者の総数	約160人	約370人	約160人	(実施中)

実験で使用した車両



性能評価結果



正着制御結果

	精度	備考
RTK-GPS	±10cm	GPS受信状況に影響される
磁気マーカー	±8cm	天候に対するロバスト性が高い
白線認識(カメラ)	±5cm	
縁石検出(LiDAR)	±2cm	

オーバーライド発生状況

	頻度	発生した状況
ハンドル操作	2.3回/20km	混雑した状況での車線変更
ブレーキ操作	4回/20km	・赤信号での停止 ・対向車のいる右折

※2017年12月 宜野湾実証実験時